

受領 令和3年3月1日 10時40分

通告番号 (4) 1/2

令和3年3月1日

読谷村議会

議長 伊波 篤 殿

読谷村議会議員

長 濱 宗 則 印

一般質問通告書

第505回読谷村議会定例会において次の事項の質問をしたいので、会議規則第61条第2項の規定により通告いたします。

質 問 要 旨

答弁を求める者

1 読谷村の地域防災計画から

東日本大震災から3月11日で10年となる。千年に一度の巨大津波を伴い東京電力福島第1原発事故も引き起こした、戦後最悪の自然災害。死者、行方不明は2万2千人に上った。復興支援は進んだが、約4万1千人が全国で避難生活を余儀なくされている。復興に向けて37兆円の予算が投入されたが、ふるさとの風景は一変した。変貌するふるさと。復興にまだ時間がかかり道半ばだ。時間の流れに風化してゆく震災体験の記憶をどう未来に繋いで残せるか、震災は忘れた頃にやってくる。

- (1) 読谷村地域防災計画（平成31年3月）の推進状況を伺う。
- (2) 村民及び地域の自治会、自主防災組織並び事業者の防災上の基本的責務とは。
- (3) 災害に強い村づくりのための交通・通信機能の強化、避難路道の整備等、インフラ整備の機能確保はできているか伺います。

2 新型コロナウイルス感染症対策から

- (1) 新型コロナウイルスによる感染拡大に関連した解雇や雇い止めは、その見込みを含めると県内で少なくとも2月26日時点で1,726人いると発表された。さらに顕著化する可能性もあると思われる、村民の状況は把握しているか伺う。
- (2) 村民の失業者にたいし支援策は考えているか。

3 (仮称) 読谷村総合情報センター整備計画について

村民が多く集う憩いの場、交流の場として期待が大である。

質 問 要 旨	答弁を求める者
<p>今回は、図書館、村史編集、文書保管を兼ねた、「知の拠点」と青少年センター等、新たな取り組みであります。</p> <p>(1) 事業方式をPFI採用した経緯を伺う。</p> <p>(2) PFI方式のメリットとデメリットを伺う。</p>	
<p>4 ふるさと納税から</p> <p>2019年3月27日に改正地方税が成立し6月から施行された過度な返礼品等を抑制され還元率を3割以下にすることや知場産品以外を返礼品にしない規則が始まり、「ふるさと納税」の全面見直しが行われました。2020年読谷村のふるさと納税額は着実に増加傾向にあります、2021年のさらなる増額に向けて取り組みを伺う。</p> <p>(1) 今年の努力目標額は、</p> <p>(2) 新規制化により還元率、を武器に価格競争では勝負できない、自治体や返礼品の背景にあるストリートや、他の自治体との違いやオリジナルティの高さブランド力と既存の寄付者とのコミュニケーションが大変重要と考えるが、当局の考えは。</p> <p>(3) 今後のふるさと納税にたいする戦略を伺いたい。</p>	
<p>5 ICT教育から</p> <p>読谷村ではタブレットを活用した学びや教育活動を取り入れたいICT導入により教育環境はどう改善されるのか。</p> <p>(1) ICT教育のメリットとデメリットとは。</p> <p>(2) 学校現場と保護者の意見はどうか。</p> <p>(3) ICT支援員による研修、ヘルプデスクの導入は確保されているか、セキュリティ対策と管理体制は。</p> <p>(4) 特別支援教室への対応は。</p>	